

富良野で見た野生動物との暗黙の境界線

2015年8月23日

太田隆次

友人がこの8月中旬に、富良野に拠点がある倉本聰の仕事を手伝っている長男宅に滞在して、倉本聰も積極的に参加している「自然と暮らす」富良野の活動を目の当たりに見てきたと、8月15日に撮ったヒグマの写真付きで土産話をしてくれました。

その中で、最も感動したのは長年にわたって「野生動物との共生」に全住民が力を入れてきたことです。北海道の野生動物といえばヒグマです。富良野近辺にも沢山いるそうです。

野生のクマとの付き合い方その1 — クマはこわいぞ

野生のクマとの付き合い方その1は、「クマ出没注意」などの看板を立てて、見つけ次第、「猟友会」に通報しメンバー達が猟銃を持って駆け付け「駆除」するのが一般的です。写真は群馬県水上町のあちらこちらに立っている看板です。この写真は私が撮ったものです。



野生のクマとの付き合い方その2 — 野生動物全体との共生を

野生動物はクマだけではありません。猿、鹿、イノシシ、鳥類、イルカ、クジラなど沢山います。害獣として一方的に殺すのではなく、あるいは一方的に餌付けして野生の力を奪い結局は絶滅に追い込むのではなく、お互いの生存領域と生活を尊重しながら共存するのです。

知床半島の海岸にはその見本があります。番屋と呼ばれる漁師小屋の砂浜で作業している漁師たちの近くまでヒグマは群れをなして来ますが、お互いの生存領域には入りません。コグマを連れてくる母グマはコグマに、漁師の作業場に入らないよう教えているかのようです。

富良野の人々は野生動物との共生をはかり、ヒグマも地域の人々の気持ちを理解しているようです。

この写真は8月15日に、倉本聰の敷地内でヒグマを見て友人が写真を撮ろうとしたら、とっさに富良野の人がさえぎってカメラを取り上げて代わりにシャッターを押してくれて事なきを得たものです。ヒグマはおとなしく立ち去ったそうです。富良野の人々を信頼して、お互いに不可侵という暗黙の共生路線をヒグマたちも納得しているようです。

なお、クマよけには鈴がいいといいますが、「本州にすむツキノワグマには効果があるが、北海道に棲むヒグマは警戒心が強く効果はない」、「両方に効果はない」、「両方に効果がある」など諸説があります。「その時の自己判断」でという専門家もいます。

北海道庁のHPは「ヒグマに効果あり」です。URLは
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/environ/parks/tyui-higuma.htm>

知床財団も「鈴をつけて音を立てた方がいい」です。URLは
<http://www.shiretoko.or.jp/library/bear/bear1/>



なお倉本聰は日本経済新聞の「私の履歴書」を連載中です。(2015年8月1日～31日)